

稲作情報

Vol.6 平成27年7月2日

宮城県米づくり推進気仙沼地方本部

問い合わせ先：本吉農業改良普及センター

TEL：0226-29-6044 HP：<http://www.pref.miyagi.jp/my-nokai/>



生育は5日程度進んでおり必要茎数を確保。中干しの実施を!

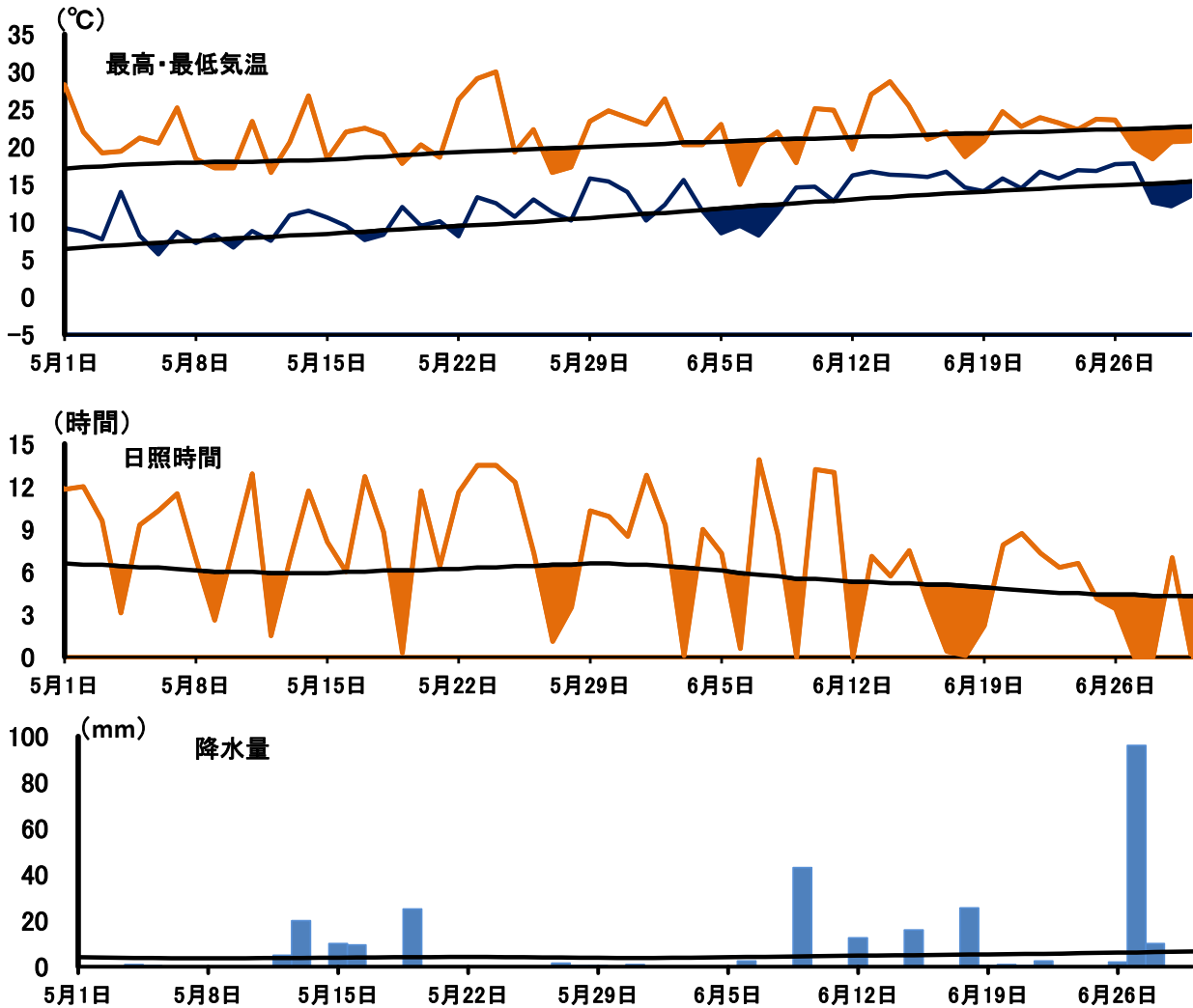


図1 気象経過図（気仙沼アメダス：5/1～6/30）

気象経過 6月5半旬は多照少雨，6半旬は少照多雨。

- ・気温は，6月5半旬は平年より高く，6半旬は低く推移しました。
- ・日照時間は，6月5半旬は平年を上回りました。
- ・東北地方南部は，平年より14日遅い6月26日に梅雨入りし，6月6半旬の降水量は平年を大きく上回りました。

表1 半旬別気象表（気仙沼アメダス）

	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)			日照時間(hr)			降水量(mm)		
	H27	平年	差	H27	平年	差	H27	平年	差	H27	平年	比	H27	平年	比
6月1半旬	17.4	15.7	1.8	22.6	20.5	2.1	11.6	11.4	0.2	38.5	31.5	122%	0.0	19.7	0%
6月2半旬	16.0	16.3	-0.3	20.1	21.0	-0.9	11.6	12.3	-0.7	36.3	28.4	128%	45.5	22.0	207%
6月3半旬	19.4	16.8	2.6	25.2	21.4	3.8	15.6	13.2	2.5	33.3	26.4	126%	28.5	24.4	117%
6月4半旬	18.0	17.4	0.6	21.4	21.8	-0.3	15.4	13.9	1.5	14.4	24.9	58%	27.0	26.3	103%
6月5半旬	19.2	17.9	1.3	23.2	22.1	1.0	16.1	14.6	1.6	33.0	22.7	145%	3.0	28.7	10%
6月6半旬	17.7	18.4	-0.7	20.7	22.5	-1.8	14.7	15.1	-0.4	10.6	21.7	49%	108	31.8	340%

生育経過 生育は平年より5日程度進んでいる。必要茎数は確保。

1) 生育調査ほ

- ・6月6半旬の天候が低温・少照・多雨であったことから、生育のスピードは鈍化し、平年より5日程度の進みとなりました。茎数は、両生育調査ほとも必要茎数を確保しました。
 - ・気仙沼市の生育調査ほ（ひとめぼれ）では、平年と比較して、草丈は平年並、茎数はやや少なめ、葉数は多く、葉色はやや薄くなっています。
 - ・南三陸町の生育調査ほ（ササニシキ）では、平年と比較して、草丈は長く、茎数は多く、葉数は多く、葉色はやや薄くなっています。
- 管内の移植水稻は、おおむね必要茎数(約 450 本/m²)を確保したと思われます。

表2 生育調査結果

調査地点名 品種名 (田植日)		6月20日調査				7月1日調査			
		草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 SPAD値	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 SPAD値
生育調査ほ	平成27年	32.2	426	8.6	43.7	45.9	575	10.0	38.0
	前年	32.8	513	7.5	41.1	44.8	717	9.3	40.8
気仙沼市本吉 ひとめぼれ (5月14日)	平年	31.6	483	7.7	41.2	45.1	654	9.3	40.9
	前年比(差)	98%	83%	1.1	106%	102%	80%	0.7	93%
生育調査ほ	平成27年	36.5	553	8.8	40.7	48.7	712	10.3	35.4
	前年	34.4	370	8.5	42.5	46.6	574	9.1	40.9
南三陸町入谷 ササニシキ (5月14日)	平年	32.3	410	7.6	39.6	43.3	574	9.2	39.2
	前年比(差)	106%	149%	0.3	96%	105%	124%	1.2	87%
	平年比(差)	113%	135%	1.2	103%	112%	124%	1.1	90%

注: 平年値は過去5カ年(平22~26年)の平均値

2) 復旧農地

普及センターでは、管内の復旧農地の水稻も調査を行っています。

除塩ほは復旧後作付け3年目、土壌改良プログラム実証ほは2年目です。

「土壌改良プログラム」とは？

客土した復旧農地で、地力不足を緩効性肥料と追肥で補い、たい肥で土づくりを行うことにより、収量を確保しながら5カ年で通常の地力に戻すプログラム。

表3 復旧農地の生育調査結果

調査地点名 (田植日)	区名		6月20日調査				7月1日調査			
			草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD値)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD値)
除塩ほ 気仙沼市階上 (5月16日)		平成27年	24.9	201	7.6	38.9	35.6	304	9.3	40.8
		前年	31.8	206	7.3	44.1	43.3	440	9.3	45.2
		前年比(差)	78%	98%	0.3	88%	82%	69%	0.0	90%
土壌改良プログラム実証ほ	実証区 (たい肥3t)	平成27年	27.5	281	7.6	40.8	36.9	445	9.3	31.2
		前年	33.1	99	6.8	32.2	42.1	293	8.7	43.7
		前年比(差)	83%	283%	0.8	127%	88%	152%	0.6	71%
南三陸町歌津 (5月23日)	対照区 (たい肥0.6t)	平成27年	27.7	276	7.2	42	36.2	437	9.0	33.0
		前年	27.4	137	6.5	30.9	36.4	344	9.3	45
		前年比(差)	101%	201%	0.7	136%	99%	127%	-0.3	73%

※土壌改良プログラム実証ほの基肥は、両区とも「てまいらず」34kg/10a。

※品種はすべて「ひとめぼれ」。

除塩ほは、前回よりも茎数が100本以上増えましたが、ほ場内で生育ムラが見られています。

土壌改良プログラム実証ほは、今年は順調に生育しており、茎数は昨年より1.3~1.5倍となっていますが、葉色は昨年より低くなっています。これは、窒素成分が茎数増加に使われたためと推測されます。実証区と対照区の差は、現在のところあまりありません。

今年作付け再開したほ場整備地区では、鉄コーティング直播に挑戦した工区もあり、移植ともども順調に生育しています。一部の直播ほ場では雑草発生があり、後期除草剤を散布しました。

3) 鉄コーティング直播

直播展示ほは、茎数は昨年の1.7倍、葉数は昨年より1.5枚進んでおり、移植と遜色ない草姿となっています。

表4 直播展示ほの生育調査結果

調査地点名 (は種日)		6月20日調査				7月1日調査			
		草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD値)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD値)
直播展示ほ 気仙沼市本吉町 (5月11日)	平成27年	21.6	206	6.8	41.7	32.8	441	8.8	38.9
	前年	20.2	108	4.3	32.3	27.6	260	7.3	41.2
	前年比(差)	107%	191%	2.5	129%	119%	170%	1.5	94%

※鉄コーティング直播栽培3年目。品種は「ひとめぼれ」。

今後の技術対策

必要茎数は確保。中干しの実施を！！！！

◎水管理

- 必要茎数が確保されたら(450本/m²、株あたり20~25本が目安)、早めに中干しを開始して、過剰分けつの発生を抑制しましょう。
- 中干しは7~10日間を目安に、土の表面に亀裂が軽く入り足跡が付く程度まで行ってください。水はけの悪い水田では、溝切りを行うと中干しの効果が高まります。
- 中干し終了後、急に湛水状態にすると、有機物の分解が促進されるなど還元状態が進み、酸素不足となり根を痛めやすくなります。そのため、中干し終了直後は走り水程度とし、その後間断かん水としてください。

◎雑草防除

- オモダカ、シズイ、コウキヤガラなどの多年生雑草やホタルイが多発しているほ場が散見されます。これらの雑草が多発したほ場では、斑点米カメムシ類の発生が助長されるほかに、生育が抑制され穂数減少などにより減収となることがありますので、後期除草剤等で防除してください。
- 後期除草剤の使用時期は、幼穂形成期前(7月上旬)までです。散布時期が遅れると水稻に生育障害が生じやすいので、遅れないように処理してください。また、使用時に低温が続く場合は散布を控えてください。
- 使用量や使用方法は、薬剤や対象草種ごとに違ってしますので、ラベルを読んで確認した上で使用してください。

◎病害虫防除

《葉いもち》

- 病害虫防除所の発生予報(6月23日発表)によると、葉いもちの発生開始時期は平年並(7月1半旬)、発生量も平年並と予察されています。
- いもち病は、平均気温19~25℃で多湿のとき感染しやすくなります。病害虫防除所の「葉いもちの感染好適日の推定(BLASTAM)」によると、7月1日現在で葉いもちの感染に好適な気象条件は発生していませんが、水田の見回りを行い、早期発見に努めてください。
- いもち病の発生が認められた場合は、すでに周辺の株に感染している可能性があるため、周辺のほ場も含めて直ちに治療効果のある茎葉散布剤で防除してください。

注 意！

- * 茎葉散布剤を使用する場合は、耐性菌の出現や増加を避けるため、同一系統薬剤の連続使用や多数回散布は行わないでください。
- * 薬剤のラベルをよく読み、使用基準を守って散布してください。
- * 散布時は、周辺環境等への薬剤の飛散に気をつけてください。また、薬剤は飛散が少ないDL粉剤を選定するなどしてください。

《斑点米カメムシ類》

- カメムシ類は、イネ科やカヤツリグサ科雑草の穂で増殖します。畦畔や雑草地は、雑草の出穂前に刈り取るよう努めてください。草刈りは、地域で一斉に行うと効果が上がります。
- 草刈りは、出穂10日前（7月下旬）までに終わらせましょう。それ以降の草刈りは、カメムシ類を水田内に追いやることになります。
- 水田内のイヌホタルイやシズイ（カヤツリグサ科）、ヒエ（イネ科）等の残草は、カメムシ類の水田への侵入および斑点米被害を助長します。後期除草剤などにより確実に除草してください。

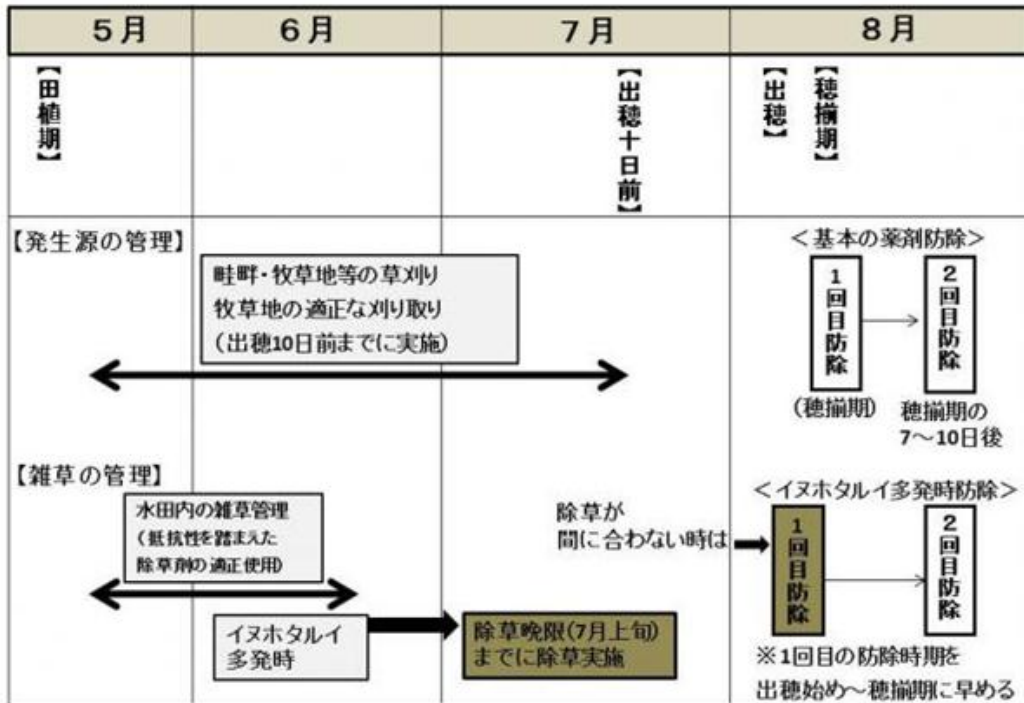


図2 斑点米カメムシ類の防除体系

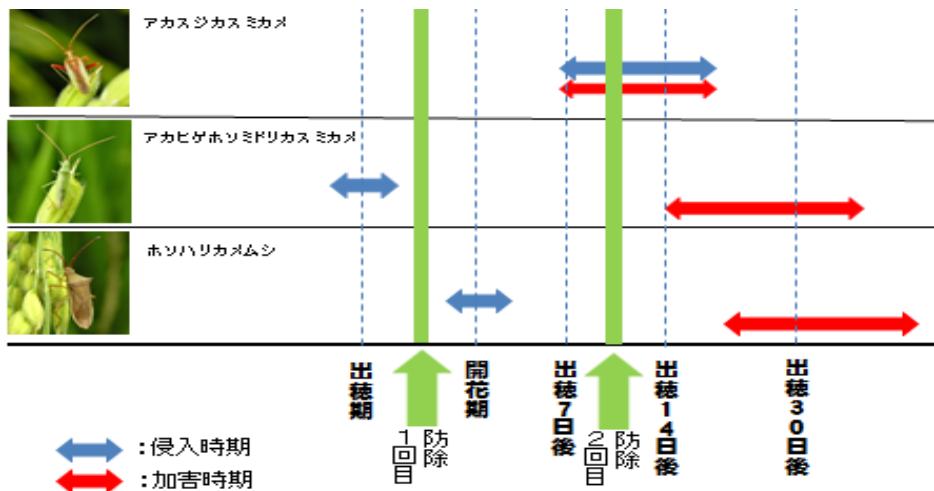


図3 斑点米カメムシ類の生態と防除時期